

鳥海山と月山（出羽三山）に登山して

2017年8月18日～20日

2018年12月追記

我部山民樹

出羽三山は月山（1984m）、湯殿山、羽黒山からなり、月山は日本百名山の一つである。593年に第32代崇峻天皇（蘇我馬子に暗殺された。殺された唯一の天皇。）の第一皇子・蜂子皇子（はちこのみこ）が蘇我氏からの難を逃れてこの地に来て、羽黒山を開山したのが始まりである。



我が市原市でもその風習が盛んで、男子が15歳になると出羽三山詣で（奥参り）をする。三神社の供養塚があちらこちらに建てられている。それに興味を覚え、いずれ登山するつもりだったが、やっと実現する。

鳥海山（2236m）は出羽富士とも称され、日本百名山の一つである。おおよそ、60万年前の噴火でできた山だ。その後、噴火を繰り返して現在の姿になったらしい。地元の人達にとっては、見上げれば何時も見られる山であり、暮らしには無くてはならない山である。万年雪を湛え、養分を含んだ雪解け水が田畑を潤し、それが海底まで流れ、岩ガキや海産物を潤しているそうだ。

またタンパク源の少ない地域で有り、昔から熊やウサギが狩猟され、食されている。共に鳥海山の恵である。今でも狩猟のしきたりが残っているそうだ。

遊佐町に鎮座する鳥海山大物忌（おおものいみ）神社の本殿が山頂に鎮座している。

8月18日

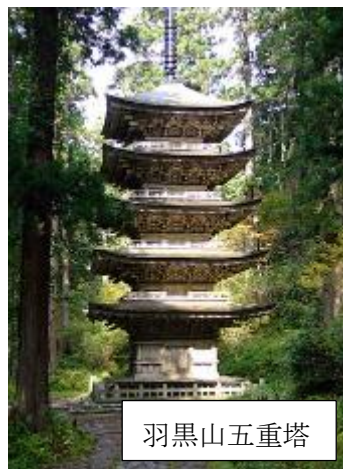
東京駅 7:12 発のつばさ 123 号にて山形駅に向かう。添乗員は G さんだ。以前、一緒だったことがあるようだが、どこかは思い出せない。若いが、丁寧に説明できる男性だ。高齢者は一度聞いてもなかなか頭に入ってこないのだ。丁寧に何度も繰り返す必要がある。

男性 14 人、女性 10 名のクラブツーリズムのツアーである。いつもは男性がせいぜい、3 割程度だが、今回のツアーのように男性の方が多い。初めてである。

山形駅より、バスにて湯殿山に向かう。2 時間ほどで到着。バスを降りるのとはほぼ同時に雨が降り出す。祈禱を受けて、御朱印をいただく。証拠写真をエリアの外から撮影後（神社エリア内は撮影禁止）、バスにて羽黒山に向かう。

移動中に雨が上がったが、羽黒山に着いたところで、再び雨が降り出す。タイミングがよくない。

2446 段の石段を雨の中、小一時間かけて登り、本殿に向かう。途中、左側に五重塔が聳え立っているのが見える。素木造りで東北最古の五重塔で国宝に指定されている。



やがて山頂に到着する。羽黒山・出羽（いでは）三山神社がある。三神合祭殿である。



月山や湯殿山は雪深い山頂や溪谷にあり、積雪のため、通年の参拝が困難である。

通年に参拝できるように三山の神々をここに合祀している。茅葺きで豪壮な造りで、国の重要文化財に指定されている。参拝後、御朱印を頂き、証拠写真を撮影する。

バスにて鳥海山 4 合目にある大平（おおだいら）山荘に向かう。16 時頃に到着。有難いことに温泉が有る。ビールを楽しみながら、山菜料理を堪能する。

8 月 19 日

天候は曇りである。雨に降られなければ幸いか。地元ガイドの I さんがホテル入り口で合流。まるでアラブの人のようにないでたちだ。後で、誰かが‘アイエス (IS) 国の人’のようですね。’と。余計か？



鳥海山

4:30 にバスにて吹浦登山口に向かう。約 10 分で到着。七五三掛（しめかけ）を經由して鳥海山の山頂に向かう。高山植物が美しい。なだらかな丘陵地を、お花畑が延々と続く。



オヤマリンドウ



チョウカイアザミ



ニッコークリスゲ

ノリウツギ（白）、アカモノ（赤い実）、ウゴアザミ、タカネトウウチソウ、オヤマリンドウ、ニッコークリスゲ、ミヤマアキノキリンソウ、ハクサンボウフウ、キンコウカ、チョウカイアザミ、アオノツガザクラ、チングルマ、イワイチョウ、ハクサンチドリ等である。



鳥海湖

御室で御朱印をいただく。その後、岩場を登り、20分程で頂上の新山に到着する。証拠写真を撮影する。



鳥海山にて

秋田県の鉾立登山口まで縦走する。お花畑が延々と続く。ニッコークリスゲの黄色

が目立つ。

銚立口よりバスにて羽黒山・宿坊宮田坊に向かう。2時間ほどで到着。三山宮本庁の看板がかかっている。宿坊は29あるそうだが、その中でも祈祷所の有るのは数件だそう。その中でも宮田坊は最大規模であり、350名を収容できるそう。夕食は精進料理で、無料のお酒を盃で回し飲みする。昔からの風習だそう。癪をしているので、あまり進まない。有料のビールに切り替える。やはり、下山後は冷えたビールはうまい。

8月20日

6時、隣接の宮田坊で祈祷を受けて、御札をいただく。代表で玉串奉奠したのは千葉から来た男性で、高校の先生だ。自分から代表を希望する。昨日の夕食時に34歳で市原のM高の国語の先生と紹介を受けた。

7時10分にバスにて月山に向かう。月山の名前は天照大御神の御弟神の月読命（ツキヨミノミコト）に由来するそう。祈祷の手助けをしていたWさんが山先達（ヤマセンダツ）だ。先達によると、この界隈は熊がよく出没するそう。出没してもニュースにもならないそう。マタギも減ってきて、猟をしなくなった。熊は鉄砲を撃たない人間を恐れなくなってきたそう。それで村に出没するようになったそう。畑に‘熊注意’の立て札が目立つ。猿、猪も同様に、鉄砲を撃たない人間は恐ろしくないの、あちらこちらに出没しているのだろう。



弥陀ヶ原経由にて頂上に向かう。高山植物が咲き誇っている。この山には130種類ほどあるそう。トモエヨツガマ、ナンブタカネアザミ、タテヤマウツボ、エゾシオガマ、ヒナザクラ、トウヤクリンドウ、オタカラコウ、ハクサンシャジン、ハクサンチドリ、ニッコークリスゲ、イワカガミ等は分る。鳥海山で見た高山植物もある。後は名前を聞いたのに忘れてしまったものや、もともと名前が分か

らないのだ。

途中、白装束の信者の人達に良く出会う。7月1日～9月15日までしか登山できないそうなので、この時期に信者の御参りが集中するのだろう。



頂上に鎮座する月山神社本宮で祈祷を受けて、お守りと御朱印をいただく。直ぐ近くにある仏生池小屋にて昼食のおにぎりを食す。テーブルの前に座っていた60歳後半と思える女性がいかに先生のように思えたので、‘教職関係ですか？’と尋ねたら、‘丸だしですか？高校で数学の教鞭をしています。もう非常勤です。千葉在住だが、市原C高校で数学の教職をしています。’と返ってきた。小生と市原のM高の先生との会話の中で、小生が市原から来たことを知っていて、高校の名前まで出したのだろう。長年の経験で医者、学校の先生と公務員の方は一般のサラリーマンと何となく違うので、分るような気がする。それ以上の説明は割愛する。錯覚かも知れない。

牛首に下山する。リフト上駅より、リフトで降りる。13分程でリフトした駅に到着。5分程歩いて蛸沢にいき、待っていたバスにて山形駅に向かう。途中、水沢館温泉で汗を流す。疲れが癒され、入浴の後のビールがとてもうまい。

山形駅周辺のソバ屋で、小岩在住と八街在住の男性と3人でビールと会話を楽しむ。

後は電車の中で寝ながら帰るだけだ。

以上